小学生における学習習慣と学業成績の関係*

杉村 健 ** 井上登世子 ** 豊田弘司 *** (心理学教室) (奈良保育学院)

子どもたちは成長するにつれてさまざまな習慣を身につけていくが、その主なものは次の3つである。1つは、食事、排便、着衣、睡眠、清潔といった幼児前期にしつけられる基本的生活習慣である。この習慣の自立は、日常生活におけるよりよい適応を可能にするだけでなく、子どもの心の自立の基礎になるという点で非常に大切なものである。次に、幼稚園や保育所での生活や遊びを通して集団生活に適応していくという習慣を身につけなくてはならない。その習慣化によって、自己統制、責任感、協調性、自主性といった、社会生活に必要な素地が養われる。これらは社会的生活習慣とよばれるものである。さらに、小学校に入学することにより学校生活に適応していかなくてはならないが、なかでも学習への適応が重要であることはいうまでもない。その適応がうまくいくかどうかは多くの要因によって左右されるが、特に子どもにとって大切なのが学習習慣であり、学習習慣が形成されれば、かなりの程度、学習への適応が成功したといえる。

それでは、学習習慣の内容としてどのようなものが考えられているのであろうか。辰野(1964)は、その主なものとして予習・復習の仕方、授業の受け方、図書館の利用、本の読み方、辞書や参考書の使い方、ノートのとり方、記憶の仕方、考え方、レポートの書き方、試験の受け方、注意集中の仕方、環境の生かし方、および休養のとり方をあげている。杉村(1984)は、家庭における学習習慣を学習の計画・実行と学習の内容の2つに分け、学校における学習習慣として授業の受け方とテストの受け方の2つを取り上げ、それぞれについて具体的な項目を示している。

次に、市販の標準化された検査の中から学習習慣に関係すると考えられるものをあげてみると、診断性学習法診断検査(田崎、1961)には計画を立てて勉強する計画性、自分から進んで勉強する積極性、勉強の仕方を工夫する創造性、勉強に対する快適な環境があり、学力向上要因診断検査(松原、1967)には勉強の方法、学習意欲、家庭環境が含まれている。新学習適応性検査(辰野、1977)には、勉強の意欲、勉強の計画、授業のうけ方、本の読み方・ノートのとり方、覚え方・考え方、テストのうけ方、家庭の環境といった学習習慣にかかわる項目が多く含まれている。能率的学習法診断検査(松原、1967)は以下に示すように、検査全体が学習習慣に関係しているといえる。勉強の計画性、勉強のやり方、計画と実行、学習意欲、生活習慣、学習習慣、学習環境、授業をうける準備、ノートのとり方、質問のし方、授業ちゅうの態度、試験の準備の

^{*} Relationships between study habits and academic achievement in elementary school children

^{**} Takeshi Sugimura Toyoko Inoue (Department of Psychology, Nara University of Education, Nara)

^{***} Hiroshi Toyota (Nara Nursey School Teachers' College)

し方、試験のうけ方、答案の利用法。

本研究の目的は、上に述べた市販の諸検査を参考にして、学習習慣を査定する項目を作成し、 小学生における学習習慣の実態を調べるとともに、学業成績と学習習慣の関係を検討することで ある。

方 法

調査対象 小学校2、4、6年生の合計 395名で、その内訳は表1に示されている。

		6	- 合計		
		2	4	6	
男	児	60	70	7 2	202
女	児	5 5	69	6 9	193
合	計	115	139	141	395

表1 調査対象の内訳(人数)

調査内容 (1)学習習慣——上述した学習習慣に関する考え方や検査内容を参考にして、まず、 学習習慣を家庭における学習習慣と学校における学習習慣に分け、さらに学習習慣を支えるもの として学習意欲を加え、それぞれについて表2に示すような構成要因を考えた。この表で、生活 習慣と学習環境は家庭における学習習慣の、登校の意欲は学校における学習習慣の基礎をなしてい るものである。

次に、これらの内容にかかわる項目すべてを検査の項目の中から選び出したところ、内容が類似したものも含めて約200項目が得られた。これらの項目について、①内容が類似したものは1つにまとめ、②子どもたちの現実の生活からかけ離れているものを除くという作業を行い、90項目を作成した。最後に、大学生25名に①項目の内容が小学校の低学年児でも理解できるかどうか、②それぞれの構成要因として必要な項目であるかどうかを2件法で判断してもらい、約70%以上の者が理解できかつ重要であると答えた項目を選定した。さらに、わかりやすい表現に改めて、最終的に62項目を作成した。表2の括弧内の数はそれぞれの構成要因を示す項目数である。なお、具体的な質問項目は引用文献のあとに示されている。

	家庭の学習習慣		学習意欲	学校の学習習慣				
Α	生活習慣(6)	Α	積極性・向上心(6)	Α	登校の意欲(5)			
В	学習環境(5)	В	集中力・持続力(6)	В	授業の受け方(10)			
С	宿題・復習・予習(4)			С	ノートの取り方(5)			
D	計画と実行(5)			D	テストの受け方(5)			
E	勉強の仕方(5)							

表 2 学習習慣の構成要因

臼 括弧内の数字は質問項目の数を示す。

(2)学業成績 ——1 学期末の国語、社会、算数、理科の成績 (素点)を調査校から提供してもらった。

手続き 学習習慣の調査と知能検査は心理学専攻生によって午前中に各教室で実施された。 実施日は2年生と6年生は昭和60年10月21日、4年生は10月22日であった。学習習慣の回答用紙には、上部に"はい、いつも"は〇、"はい、ときどき"は△、"いいえ"は×という答え方が印刷してあり、その下に1番から62番までの項目番号が印刷してある。答え方を板書してよく理解させてから、1番から順に質問項目を読みあげ、〇、△、×で回答させた。

結果と考察

学習習慣の学年差と性差 "はい、いつも"を2点、"はい、ときどき"を1点、"いいえ"を1点として採点した。但し、生活習慣の項目 2 と6、集中力・持続力の項目 4、5、6、登校の意欲の項目 5 および授業の受け方の項目 $7\sim10$ は、"はい、いつも"を0点、"いいえ"を2 点とした。表3 は学年別、男女別の平均とSD を示したものである。

		-		家庭	の学習習	慣		学習	意欲	学	校の学	習習慣	
			A	В	С	D	E	A	В	A	В	С	D
	男児	平均	7.23	5.3 3	3.8 2	3.32	3.60	5.48	7.23	6.4 7	10.18	4.73	6.05
2	分化	SD	2.30	2.23	2.10	3.36	2.39	3.4 9	2.90	2.1 5	3.01	2.00	2.09
年	4-1B	平均	8.93	6.6 5	4.7 1	3.76	5.2 2	7.1 3	8.67	7.4 7	11.82	5.69	6.96
生	女児	SD	2.08	1.86	1.75	2.70	2.42	2.4 6	2.3 2	1.9 1	3.33	2.13	1.88
	平	均	8.08	5.9 9	4.27	3.5 4	4.4 1	6.31	7.9 5	6.97	11.00	5.21	6.51
	男児	平均	7.5 4	5.5 6	3.20	2.03	3.29	5.3 3	5.9 4	6.06	9.67	5.04	6.51
4		SD	2.6 2	2.3 9	1.8 0	2.20	2.39	3.0 8	3.00	1.98	3.49	1.84	1.51
年	女児	平均	7.69	6.28	3.8 7	3.35	4.78	6.75	7.74	6.5 7	10.88	6.41	7.32
生		SD	2.3 7	2.0 4	1.5 9	2.46	1.99	2.40	2.26	2.0 0	2.91	1.76	1.32
	平	均	7.62	5.9 4	3.5 4	2.67	4.0 4	6.0 4	6.8 4	6.3 2	10.28	5.73	6.92
	男児	平均	6.9 9	5.6 5	3.72	3.5 1	4.0 1	5.5 6	6.31	5.5 1	8.36	4.88	6.53
6	力化	SD	2.61	2.10	1.9 7	2.93	2.56	3.08	3.05	2.22	3.89	2.36	2.20
年	4 18	平均	8.4 5	6.9 7	4.33	4.03	5.04	6.26	7.78	6.86	10.46	7.67	8.06
生	女児	SD	1.79	1.87	1.3 5	2.54	2.09	1.8 8	1.8 9	1.8 1	2.96	1.74	1.69
	平	均	7.7 4	6.3 1	4.0 3	3.7 7	4.53	5.91	7.05	6.19	9.41	6.28	7.30
学	年差	(F)	0.96	1.28	5.75 **	5.75**	1.60	0.68	6.6 3***	5.6 7**	7.62**	9.43**	6.27**

表 3 学年別、男女別の平均と

**p < .01

11の構成要因のそれぞれについて、重みをかけない平均に基づく3(学年)×2(性)の分散 分析を行った。その結果、性の主効果はすべての構成要因において1%水準で有意であり、いず れも女児の方が男児よりも高い得点を示した。このことから、家庭の学習習慣、学習意欲、学校の学習習慣のすべてにおいて、女児が男児よりも望ましい状態にあるといえる。学年の主効果については、表3の最下行にF値(df=2/389)が示されている。有意な主効果は7つの要因で得られているが、学年差のパターンは次の4つに分けられる。(1)宿題・復習・予習および計画と実行は4年生が最も低くて2年生と6年生はほぼ同じ、(2)集中力・持続力は2年生が最も高くて4年生と6年生はほぼ同じ、(3)登校の意欲と授業の受け方は高学年になるにつれて低くなる、(4)ノートの取り方とテストの受け方は高学年になるにつれて高くなる。

表 4 は項目ごとに男女をこみにした 2 点、1 点、0 点の分布(%)を示したものであり、右端の値は 3 (学年) \times 3 (得点)の2 検定の結果である。

62項目のうち42項目が5%水準または1%水準で有意になっているが、要因別にみると、生活環境、学習環境、テストの受け方では有意な学年差を示した項目が少なく、宿題・復習・予習、計画と実行、勉強の仕方、集中力・持続力、授業の受け方、ノートの取り方では有意な学年差を示す項目が多い。有意になった項目について、学年間の差がほぼ20%以上あるものを選び出し、得点ごとに増加した項目と減少した項目に分類した。増加した項目には学年の上昇につれて増加する場合、2年生から4年生にかけて増加する場合、4年生から6年生にかけて増加する場合が含まれており、減少した項目には学年の上昇につれて減少する場合、2年生から4年生にかけて減少する場合、4年生から6年生にかけて減少する場合、4年生から6年生にかけて減少する場合が含まれている。

2 年 生 4 年 生 6 年 生 χ²検 定 2点 1点 2点 0点 1点 0点 2点 0点 1点 家庭の学習習慣 3 0 4 8 2 2 2.5 4 7 28 2 8 4 3 29 2.73 1 7 8 1 7 5 7 1 2.0 8 0 1 7 3 5.32 2 4 6 28 26 5 0 3 2 18 4 5 3 4 2 1 3.11 3 Α 6 3 2 7 10 6 4 27 q 6 2 29 0.17 4 19.55 ** 4 3 2 2 2 3 1 1 30 4 8 3 1 4 5 5 4 6 29 6 3 9 5 0 4 1 8 6 1 3 0 9 6.06 6 2 1 1 1.5 1 * 60 1 9 5 5 7 0 1 3 1 1 4 1 6 14 4 3 3 7 2 0 3 1 48 2 1 3 6 4 3 2 1 3.86 2 В 3 29 2 3 48 2 2 2 1 5 7 2 1 1 7 6 2 5.41 3 6 4 1 23 39 4 5 16 3 8 48 1 4 4.29 4 7 15.80 ** 6 3 26 2 1 75 6 19 8 4 9 5 1 6.0 4 ** 65 4 70 2 5 5 1 86 1 1 3 3 1 5 2 49 1 2.0 6 ** 3 2 1 8 46 8 4 3 2 16 36 C 2 6.8 4 ** 2 3 3 3 9 60 5 4 5 5 0 3 4 4 3 1 3 3.6 8 ** 23 4 0 19 4 0 3 6 4 3 7 4 1 46 18 2 3 1 3 6 4 1 2 2 2 66 1 7 2 1 6 2 7.64 1 24.55** 29 3 8 17 3 7 2 2 5 2 26 3 3 46 2 D 28 7 1 20.65** 2 2 5 0 1 2 1 7 2 3 3 0 4 7 3 1 4.1 6 ** 2 2 1 2 6 6 1 2 2 7 6 1 2 2 25 5 3 4 15.39 ** 2 2 15 3 2 5 3 26 4 3 1 7 3 1 5 6 1

表 4 項目ごとの得点の分布(%)

E	1 2 3 4 5	2 2 3 0 2 4 3 4 2 6	5 4 3 4 3 0 4 2 3 0	2 4 3 6 4 6 2 4 4 4	3 1 1 3 9 2 6 1 0	5 5 4 9 2 8 5 5 4 5	1 4 3 8 6 3 1 9 4 5	1 2 9 4 1	6 4 5 8 4 2 4 4 4 5	1 8 3 0 4 9 1 5 3 2	9.4 5 2 2.3 6 ** 2 4.1 9 ** 1 0.8 2 * 1 7.7 2 **
学 召 A	意 欲 1 2 3 4 5 6	2 7 2 7 6 3 1 7 3 9 4 0	4 9 3 3 2 0 3 7 3 3 3 2	2 4 4 0 1 7 4 6 2 8 2 8	2 7 1 2 5 3 9 4 0 3 5	5 2 4 4 3 2 3 9 3 8 4 5	2 1 4 4 1 5 5 2 2 2 2 0	6 40 15 38	5 5 3 8 4 2 4 5 5 0 5 5	1 4 5 6 1 8 4 0 1 2 1 6	5.78 24.79** 16.63** 7.26 12.86* 13.47**
В	1 2 3 4 5 6	3 3 7 2 2 1 6 9 5 8 5 4	4 4 2 0 4 8 1 2 2 9 3 0	2 3 8 3 1 1 9 1 3 1 6	2 6 4 8 9 5 1 5 3 4 0	4 4 4 2 4 8 3 0 2 5 4 2	3 0 1 0 4 3 1 9 2 2 1 8	5 3 1 1 4 5 3 5	4 5 4 3 5 5 3 5 5 3 5 1	1 8 4 3 4 2 0 1 2 1 8	7.6 3 2 1.3 8 ** 1 0.1 4 * 2 0.8 6 ** 2 9.5 3 * * 1 5.7 0 * *
学校の学 A	習習慣 1 2 3 4 5	6 5 3 6 7 0 8 3 3 8	2 0 1 4 2 0 1 3 4 5	1 5 5 0 1 0 4 1 7	4 6 1 5 5 8 8 4 3 2	3 9 2 8 2 7 1 2 5 5	1 5 5 7 1 5 4 1 3	1 8 4 6 8 9	3 5 1 8 3 6 9 5 7	1 6 6 4 1 8 2 1 4	1 2.3 4 * 2 1.7 6 * * 1 5.3 8 * * 1.7 8 4.2 0
В	1 2 3 4 5 6 7 8 9	1 8 1 7 7 2 2 7 1 9 1 8 4 0 2 4 6 3 3 0	5 2 4 7 2 3 4 3 4 6 3 9 5 3 5 2 2 4 5 7	3 0 3 6 5 2 0 3 5 4 3 7 1 4 1 3 1 3	9 2 1 4 2 3 2 2 0 1 7 3 0 1 9 6 4 1 7	5 2 4 8 5 3 4 9 5 0 4 3 5 8 5 9 2 8 5 9	3 9 3 1 5 1 9 3 0 4 0 1 2 2 2 8 2 4	3 8 3 7 1 3 1 0 1 6 1 8 9	4 8 4 7 5 6 3 8 3 8 4 0 7 0 6 9 3 8 5 8	2 6 1 5 7 4 5 5 2 4 4 1 2 2 2 2 0 3 0	14.36** 24.68** 36.96** 37.96** 17.16** 1.02 16.64** 14.92** 19.44** 19.50**
С	1 2 3 4 5	8 4 2 4 3 3 1 5 3 7	1 4 1 8 4 9 2 3 3 0	2 5 8 1 8 6 2 3 3	7 1 2 6 3 1 1 6 4 2	2 7 2 7 5 2 5 4 4 4	2 4 7 1 7 3 0 1 4	6 0 3 9 2 8	2 8 3 0 4 1 5 0 4 5	7 1 0 2 0 2 2 3 0	18.34** 77.10** 3.45 52.24** 21.59**
D	1 2 3 4 5	1 6 6 2 5 4 5 0 7 8	3 0 3 0 1 6 4 0 1 6	5 4 8 3 0 1 0 6	5 6 3 6 9 6 3 8 1	3 5 3 4 1 7 3 0 1 7	6 0 3 1 4 7 2	6 4 6 0 4 9	4 0 3 0 2 2 3 8 2 2	2 2 6 1 8 1 3 1	6 9.9 5 * * 2.5 1 1 3.3 6 * * 8.5 3 7.0 2

- ① 2点が増加した項目——学習環境 5 (62-75-84)、授業の受け方 2 (17-21-38)、 ノートの取り方 2 (24-26-60)、テストの受け方 1 (16-5-38)。
- ② 2点が減少した項目――生活習慣 5 (43-30-23)、宿題・復習・予習 1 (86-65-70)、 積極性・向上心 2 (27-12-6)、同上 3 (63-53-40)、集中力・持続力 2 (72-48-53)、同 上 4 (69-51-45)、同上 5 (58-53-35)、同上 6 (54-40-31)、登校の意欲 1 (65-46-49)、同上 3 (70-58-46)、授業の受け方 3 (72-42-37)、同上 7 (40-30-18)、同上 9 (57-64-42)、ノートの取り方 1 (84-71-65)。
- ③ 1点が増加した項目――生活習慣 5 (11-21-31)、宿題・復習・予習 4 (23-41-46)、計画と実行 2 (29-37-52)、勉強の仕方 2 (34-49-58)、積極性・向上心 (20-32-42)、同上 6 (32-45-55)、集中力・持続力 2 (20-42-43)、同上 4 (12-30-35)、同上 5 (29-25-53)、同上 6 (30-42-51)、授業の受け方 3 (23-53-56)、同上 7 (53-58-70)、ノートの取り方 4 (23-54-50)。
 - ④ 0点が増加した項目——授業の受け方 4(20-19-45)、同上 5(32-30-52)。
- ⑤ 0点が減少した項目——宿題・復習・予習 4 (40-40-18)、計画と実行 2 (38-46-26)、同上 5 (61-53-43)、授業の受け方 2 (36-31-15)、ノートの取り方 2 (58-47-10)、同上 4 (62-30-22)、テストの受け方 1 (54-60-22)。

以上の結果をもとに、各要因ごとに学年による変化について考察する。

(1)家庭の生活習慣——生活習慣では、勉強時間と遊ぶ時間の区別(項目5)をしている者が高学年になるほど減少しており、全く区別していない者が学年を通じて45~48%もいる。学習環境では、辞書や図鑑を勉強机のそばに置く習慣(項目5)が62%から84%に増加しており、好ましい状態にあるといえる。宿題・復習・予習については、宿題を忘れずにきちんとする者(項目1)は減少しているが、2年生で86%、6年生でも70%と高率である。宿題がなくてもときどき勉強する者(項目4)が増加し、勉強しない者が減少していることから、自発的な学習習慣が形成されることが示唆される。計画と実行では、計画した勉強を最後までやらない者(項目2)が成少し、ときどき最後までやる者が増加しており、計画を実行する者が多くなることがわかる。家で決めた時間に勉強していない者(項目5)は低学年ほど多い。勉強の仕方については、どこが大切かを考えながら教科書を読む者(項目2)が、ときどき、ではあるが34%から58%に増加している。

(2)学習意欲—— 積極性・向上心では、勉強することが楽しいと答えた者(項目 2)は減少して6年生では僅かに6%にすぎず、逆に楽しくないと答えた者は6年生で56%もいる。新しいことを勉強したいと思っている者(項目 3)も減少しているが、6年生で40%もおり、"ときどき"そう思う者と合わせると82%であるので、項目 2 よりも望ましい状態にあるといえる。集中力・持続力については、6項目中4項目で2点が減少しており、学年が進むにつれて、最後まで頑張る者(項目 2)が減少し、途中でマンガを読んだり(項目 4)、テレビを見たり(項目 5)する者、勉強を始めても、すぐいやになってしまう者(項目 6)が増加する。この結果は、集中力・持読力が学年が進むにつれて低下することを示すものである。これは常識的な考えとは合わない

が学年が進むにつれて復習や予習に必要な時間が長くなり、その内容も難しくなるために、途中 で飽きたり、いやになると感じやすいのであろう。

(3)学校の学習習慣——登校の意欲では、少しくらい体の調子が悪くても学校へ行きたいと思う者(項目3)が70%から46%に減少しており、勉強の楽しさや新しいことを勉強したい気持ちの減少と対応している。授業の受け方では、チャイムが鳴ったら勉強の用意をする者(項目2)が増加するのに対して、授業中、先生の話をよく聞く者(項目3)が減少し、ぼんやりしている者(項目7)や落書きをする者(項目8)が増加している。これらは、授業がわかりすぎるか又はわからないかのいずれかで、退屈している子どもが増加することを反映しているのかもしれない。さらに、質問に自分から進んで答えない者(項目4)や自分から進んで意見を言わない者(項目5)が増加し、6年生では50%前後に達している。これらの結果からみて、学年が進むにつれて、授業中の態度が好ましくなり、授業に対する積極性が乏しくなっていくといわざるを得ない。

ノートの取り方では、先生が黒板に書いたことを写す者(項目1)は学年を通じて多いが、84%から65%に減少している。これに対して、先生に言われなくてもノートに書く者(項目2)は24%から60%にも増加し、さらに、勉強したことをノートにまとめて書く者(項目4)も増加している。このように、学年が進むにつれて積極的にノートを取り、まとめることができるようになる。最後に、テストの受け方では、計画を立てて勉強する者(項目1)が増加している。その他の項目では2年生でも50%以上の者が望ましい習慣を身につけており、特に、間違ったところをやり直す者(項目5)は78%にも達している。

学習習慣と学業成績の関係 学習習慣と学業成績との関係を明らかにするために、1学期末の国語、社会、算数、理科の素点の合計点が高い者(上位群)と低い者(下位群)の学習習慣を比較した。2年生では各学級で合計点の高い方から男女6名ずつ、低い方から男女6名ずつを選び、成績上位群、下位群ともに36名ずつとした。4年生と6年生では男女4名ずつを選び、上位群、下位群ともに40名ずつとした。これらの人数は各学年の人数のほぼ30%にあたるものである。

表 5 は、上位群と下位群の平均と SD および平均の差を示したものである。各要因について 2 (群)×2(性)の分散分析を行い、群の有意な主効果があったものが表中の差のところに示されている。

2年生では生活習慣、集中力・持続力および登校の意欲だけが有意であり、4年生では生活習慣、宿題・復習・予習、集中力・持続力、登校の意欲、授業の受け方、テストの受け方が有意であった。6年生は学習環境以外のすべてにおいて有意であった。表から明らかなように、有意差があったところはすべて、上位群の得点が下位群の得点よりも高いこと、すなわち、上位群の方が望ましい学習習慣が身についていることを示す。

2年生では3つしか有意差がなかったのに、4年生では6つ、6年生では10というように学年とともに増加していることからみて、学習習慣と学業成績の関係は学年とともに強くなるといえる。3つの学年を通じて有意差があったのは生活習慣、集中力・持続力および登校の意欲であり、これらの3つは小学校を通じて学業成績と関係がある学習習慣である。4年生と6年生で有意差があったのは宿題・復習・予習、授業の受け方、テストの受け方であり、これらは中学年から高

表 5 成績上位群と下位群の平均と SD

-			家庭	の学習	習慣		学習	意欲	<u>ئ</u>	を校の学	習習慣	
		Α	В	С	D	E	A	В	A	В	С	D
	平均	8.50	620	4.28	2.81	4.67	6.23	8.56	7.59	11.39	5.48	6.70
2	上位群 SD	1.90	1.91	1.62	299	2.67	3.20	2.32	1.77	3.49	2.00	186
4	平均 下位群	7.42	5.81	4.00	3.75	4.25	5.64	7.14	6.47	10.31	5.25	6.28
年	SD	2.18	2.00	2.03	2.76	1.92	2.72	2.63	188	3.39	1.76	2.05
生	差	1.08*	0.39	0.28	-0.94	0.42	0.59	1.42*	1.12*	1.08	0.23	0.42
	平均 上位群 SD	848	5.90	3.85	2.70	4.00	6.20	7.28	6.90	11.11	5.85	7.23
4	上以群 SD	1.92	2.21	1.48	243	212	2.45	284	1.75	316	1.68	1.27
年	平均 下位群	6.98	5.80	298	235	4.13	5.35	5.98	5.28	9.05	5.28	633
4-	SD	2.33	2.19	1.62	2.06	225	2.79	2.65	193	3.05	1.84	1.61
生	差	1.50*	* 0.10	0.87*	0.35 -	-0.13	0.85	1.30*	1.62**	206*	0.57	0.90**
_	上位群 SD	8.88	6 .60	4.78	5.10	5.33	7.35	7.85	6.45	10.75	695	780
6		2.14	1.58	1.56	290	1.92	2.35	2.51	2.01	293	1.87	1.75
Æ	平均 下位群 SD	6.70	6 .05	3.38	325	3.68	4.98	6.50	5.38	825	5.63	6.63
年	SD SD	185	1.85	1.49	227	2.08	2.09	2.04	193	320	1.82	200
生	差	2.18*	* 0.55	1.40**	* 1.85**	1.65**	237**	1.35*	1.07*	2.50**	1.32**	1.17**

* P < .05 ** P < .01

学年にかけて重要になってくる学習習慣である。計画と実行、勉強の仕方、ノートの取り方は高 学年になって学業成績を規定する要因である。学習環境については、どの学年でも学業成績との 関係がみられなかった。

表 6 は、成績上位群と下位群について、項目ごとの得点の分布と、学年ごとに 2 (群)×3 (得点)の プ検定を行った結果を示したものである。この検定で有意になった項目は、上位群が下位群と比べて 2点の者が多いか、0点の者が少ないか、あるいは 2点の者が多くて 0点の者が少ないかのいずれかである。有意になった項目の数は 2年生は10、4年生12、6年生21であり、2年生と 4年生に比べて 6年生の方が学習習慣と学業成績の関係が強いといえる。次に、有意になった項目について学年ごとに検討してみよう。

(1) 2年生 — 家庭の学習習慣 3 項目、学習意欲 1 項目、学校の学習習慣 6 項目で有意差があった。家庭の学習習慣では、成績上位群は下位群と比べて、勉強時間と遊ぶ時間を区別し(生活習慣 5)、決まった場所で勉強し(学習環境 1)、教科書を何回も読む者(勉強の仕方 1)が多い。

勉強の途中でマンガを読まないと答えた者(集中力・持続力 4)は上位群には78%もいたが、下 位群では僅かに28%であった。学校の生活習慣では、学校のある日の方が楽しい(登校の意欲 2)、 学校へ行きたくないと思う(同上 5)で有意差があった。授業の受け方では 3 項目に有意差があ り、上位群の者は、授業中、分らないところがあったら質問し(項目 6)、よそ見をしたり(項 目 8)、落書きをする(項目 9)ことが少ないことがわかる。テストの受け方では分かる問題か らすると答えた者(項目 4)が上位群で多い。

(2) 4年生 — 家庭の学習習慣 3項目、学習意欲 2項目、学校の学習習慣 7項目で有意差があった。忘れ物をしないように気をつけている者(生活習慣 4)が上位群では78%もいるのに対して下位群では38%にすぎず、宿題を忘れずに、きちんとやっている者(宿題・復習・予習 1)も、同じ順に85%と40%であった。 2年生と同様に、勉強時間と遊ぶ時間の区別(生活習慣 5)で有意差があった。

学校の学習習慣をみると、登校の意欲では、学校へ行くのが楽しいと答えた者(項目1)は上位群62%に対し下位群25%であり、学校のある日の方が楽しくないと答えた者(項目2)は上位群45%に比べて下位群では70%もいた。2年生と同様に、学校へ行きたくないと思う者(項目5)にも有意差があった。授業の受け方では、先生の話をよく聞いている者(項目3)は上位群62%、下位群23%で著しい差があり、先生の質問に自分から進んで答える者(項目4)にも有意差があった。下位群では先生が黒板に書いたことをノートに書かない者(ノートの取り方1)が18%もおり、テストの見直しをする者(テストの受け方4)は上位群75%に対し下位群55%であった。

(3)6年生——家庭の学習習慣9項目、学習意飲4項目、学校の学習習慣8項目で有意差があった。家庭の学習習慣では、忘れ物をしないように気をつけている者(生活習慣4)が上位群では75%もいるのに下位群では40%にすぎず、これは、4年生と類似している。勉強時間と遊ぶ時間の区別(同上5)は3学年を通じて有意であったが、テレビを見すぎる者(同上6)は6年生で有意であり、上位群では68%の者がそのようなことがないと答えている。宿題をきちんとやっている者(宿題・復習・予習1)は上位群85%、下位群55%であるのに対して、その日のうちに復習していない者(同上2)は上位群25%、下位群58%であり、宿題や復習をすることが学業成績と関係があることがわかる。計画と実行で有意差があったのは6年生だけである。この要因は表3からわかるように、平均点が相対的に低く、表4をみても2点の割合が最も少ないことからみて、小学生にとっては困難な習慣であるといえる。2つの項目で得られた有意差は、その日に家で勉強する科目を決めていない者(項目3)は下位群60%、上位群35%であり、勉強する時間を決めていない者(項目4)が同じ順に57%と37%であって、下位群ではそのような習慣がついていない者が6割もいることがわかる。勉強の仕方では、大切なところを忘れないように覚えようとしている者(項目4)や勉強の仕方を工夫している者(項目5)が上位群で多かった。

次に、積極性・向上心については、2年生と4年生では有意差を示す項目が1つもなかったが、6年生では4項目で有意差があり、また、表5の学習意欲Aでも有意差があることから、積極性・向上心の要因は特に高学年で学業成績と関係があるといえる。自分から進んで勉強する(項目1)、できなかった問題をもう一度やってみる(項目5)、分からないところは分かるまで勉強する

表 6 成績上位群と下位群の得点の分布(%)(括弧内は下位群)

			2 年	 生			4 5	 F 生			6	年 生	
		2点	1点	0点	χ²検定	2点	1点	点 0	χ²検定	2点	1点	点 0	 χ²検定
家庭 o	学習習慣 1 2 3 4 5 6	28(34) 89(67) 39(47) 72(50) 50(36) 64(58)	58 (33) 8 (25) 39 (22) 25 (36) 6 (14) 36 (28)	14(33) 3(8) 22(31) 3(14) 44(50) 0(14)	5.1 4 2.4 0 4.8 5 6.6 5 *	18(20) 80(70) 55(30) 78(38) 35(30) 70(48)	67 (50) 15 (23) 28 (50) 18 (50) 40 (13) 25 (47)	15(30) 5(7) 17(20) 4(12) 25(57) 5(5)	3.1 1 1.07 5.62 13.1 1** 10.04** 4.5 2	40(20) 85(70) 45(35) 75(40) 40(18) 68(35)	40 (43) 20 (43) 38 (32)	22 (37) 0 (7) 15 (22) 5 (17) 22 (50) 4 (10)	4.29 4.18 1.13 10.28** 7.84* 8.46*
В	1 2 3 4 5	39(64) 48(33) 25(42) 36(36) 64(58)	42 (11) 44(36) 22(20) 56(39) 19(8)	19(25) 8(31) 53(38) 8(25) 17(34)	5.7 4 2.3 2 4.0 6	60(50) 33(38) 18(18) 40(38) 70(73)		15(15) 17(22) 57(54) 12(20) 23(22)	1.03 0.84 0.07 084 0.21	73(63) 40(38) 15(25) 48(30) 85(78)	48 (35)	4(17) 12(27) 68(50) 4(20) 10(12)	3.13 3.04 2.57 5.21 0.92
C	1 2 3 4	94 (75) 11(14) 19(25) 39(33)	6(19) 42(22) 36(33) 17(31)	0(6) 47(64) 45(42) 44(36)	$\begin{array}{c} 3.14 \\ 0.32 \end{array}$	85(40) 12(2) 18(8) 15(13)	13(50) 45(43) 30(30) 48(45)	2(10) 43(55) 57(62) 37(42)	17.28** 3.34 0.58 0.24	85 (55) 18 (5) 8 (3) 45 (27)	15 (35) 57 (37) 52 (40) 42 (50)	0(10) 25(58) 40(57) 13(23)	9.77** 9.58** 2.93 3.08
D	1 2 3 4 5	17(28) 31(28) 28(33) 17(25) 14(19)	11(14) 19(41) 17(25) 11(11) 14(14)	72(58) 50(31) 55(42) 72(64) 72(67)	4.65 1.50 0.78	13(10) 23(10) 10(15) 13(3) 8(13)		62(67) 40(55) 70(67) 50(70) 55(55)	0.24 2.90 0.48 462 0.64	30(13) 35(20) 37(15) 35(10) 40(18)	25 (32) 47 (50) 28 (25) 18 (33) 28 (35)	45 (55) 18 (30) 35 (60) 37 (57) 32 (47)	3.67 298 6.54* 7.41* 5.01
E	1 2 3 4 5	36 (14) 31 (25) 11 (11) 36 (36) 14 (25)	47 (75) 44 (33) 28 (39) 50 (39) 47 (36)	25(42) 61(50) 14(25)	2.27 1.07 1.64	27(23) 10(18) 10(5) 25(23) 7(13)	60(57) 55(50) 27(28) 52(60) 48(42)	13(20) 35(32) 63(67) 23(17) 45(45)	0.9 1 0.9 5 0.7 4 0.5 0 0.6 1	22(10) 15(10) 10(3) 52(28) 33(10)	65 (65) 65 (45) 47 (42) 40 (47) 47 (47)	13(25) 20(45) 43(55) 8(25) 20(43)	3.59 5.70 2.55 7.15* 8.00*
学 習	1 2 3	28(17) 28(17) 67(59) 17(17)	50(50) 47(33) 19(19) 31(41)	25(50) 14(22)	4.86 0.89	23(23) 13(10) 57(47) 3(5)	50(50) 50(40) 33(30) 45(43)	27(27) 37(50) 10(23) 52(52)	0.0 0 1.27 2.34 0.3 6	55(23) 13(3) 50(28) 10(3)	35(67) 45(42) 35(52) 75(45)	10(10) 42(55) 15(20) 15(52)	9.57** 3.34 4.30 13.13**

		5 6	41(28) 50(31)		28(28) 17(28)	1.93 3.02	42(28) 43(30)	35(42) 47(40)	23(30) 10(30)	2.0 0 5.1 2	50(18) 48(13)	47(62) 47(62)	3(20) 5(25)	1252** 1432**
	В	1 2 3 4 5	33(22) 81(72) 33(36) 78(28) 69(48) 55(45)	39 (53) 19 (14) 39 (25) 14 (39) 25 (33) 31 (36)	28 (35) 0 (14) 28 (37) 8 (33) 6 (19) 14 (19)	1.61 5.49 1.79 18.19** 4.73 0.94	40(18) 45(38) 20(13) 52(47) 52(44) 45(30)	45(37) 47(47) 47(47) 28(30) 25(28) 37(47)	15(45) 8(15) 33(40) 20(23) 23(28) 13(23)	9.79** 1.27 8.3 3** 0.20 0.48 1.92	47(25) 57(47) 18(10) 57(37) 45(30) 37(30)	40(50) 40(50) 60(57) 37(40) 47(55) 50(40)	13(25) 3(3) 22(33) 13(23) 8(15) 13(28)	490 0.53 1.57 1.89 2.42 283
学	校の学	習習慣						_						
	A	1 2 3 4 5	64(61) 47(25) 83(67) 86(75) 42(25)	25 (22) 6 (33) 14 (14) 14 (17) 55 (47)	11(17) 47(42) 3(19) 0(8) 3(28)	0.48 9.73** 5.17 3.37 9.11*	62(25) 10(10) 62(40) 87(72) 40(22)	28(45) 45(20) 28(40) 13(20) 52(60)	10(30) 45(70) 10(20) 0(8) 8(18)	12.12** 6.02* 4.23 4.25 9.06*	60 (30) 15 (15) 47 (35) 90 (82) 40 (15)	27 (47) 20 (18) 40 (37) 5 (15) 47 (65)	13(23) 65(67) 13(28) 5(3) 13(20)	7.28** 0.09 3.04 2.46 6.33*
	В	1 2 3 4 5 6 7 8 9	14(22) 22(19) 44(50) 33(14) 22(19) 36(17) 31(39) 47(17) 44(61) 19(33)	67 (39) 47 (36) 39 (42) 45 (58) 45 (39) 45 (33) 63 (47) 50 (58) 50 (22) 73 (50)	19 (39) 31 (45) 17 (8) 22 (28) 33 (42) 19 (50) 6 (14) 3 (25) 6 (17) 8 (17)	5.65 1.53 1.15 3.78 0.53 7.99** 2.55 11.89** 6.79** 3.77	8 (5) 20 (18) 62 (23) 40 (10) 23 (13) 25 (25) 20 (15) 77 (62) 23 (20)	55 (45) 38 (52) 30 (72) 47 (62) 52 (50) 47 (40) 65 (60) 67 (55) 18 (30) 57 (52)	37 (50) 42 (30) 8 (5) 13 (28) 25 (37) 30 (47) 10 (15) 13 (30) 5 (8) 20 (28)	1.31 1.93 14.78** 10.27** 2.17 2.98 0.48 3.91 3.65 0.62	28 (20) 48 (28) 50 (10) 28 (10) 20 (5) 18 (13) 25 (10) 13 (5) 52 (35) 10 (18)		15(33) 0(25) 5(10) 40(55) 50(55) 40(50) 8(18) 13(20) 13(23) 30(22)	3.43 1223** 1525** 4.25 4.27 0.90 4.24 1.98 2.83 1.86
_	С	1 2 3 4 5	86(89) 17(31) 39(39) 19(17) 31(33)	11(11) 19(22) 47(33) 36(33) 41(36)		1.02 2.44 2.53 0.23 0.23	77(60) 25(20) 40(20) 20(10) 45(37)	23(22) 23(33) 40(57) 50(57) 42(50)	0 (18) 52 (47) 20 (23) 30 (37) 13 (13)	7.89* 1.05 3.98 1.58 0.52		33(40) 28(38) 32(52) 50(47) 52(42)	5(5) 10(10) 12(20) 10(33) 18(40)	0.50 0.96 6.24* 7.46* 5.26
	D	1 2 3 4 5	11(11) 61(50) 56(33) 58(45) 83(75)	36 (39) 33 (39) 8 (42) 39 (36) 14 (19)	53(50) 6(11) 36(25) 3(19) 3(6)	0.06 1.22 10.73** 5.21 0.82	5 (3) 72 (57) 67 (57) 75 (55) 85 (70)	38(35) 25(35) 18(20) 22(35) 12(25)	57(62) 3(8) 15(23) 3(10) 3(5)	0.45 236 0.99 8.85* 258	45(32) 70(50) 52(67) 67(30) 85(60)	27 (37) 30 (23)	20 (23) 3 (13) 18 (10) 5 (25) 0 (3)	1.37 461 2.00 12.79** 6.58*

(項目6)と答えた者が上位群では50%前後もおり、学校で習ったことについて、もっと詳しく 調べない者(項目4)が下位群では52%もいる。以上のように、積極性・向上心では有意な項目 が多かったのに対して、集中力・持続力では有意差を示す項目はなかった。

登校の意欲では、学校へ行くのが楽しい者(項目1)は上位群60%、下位群30%であり、朝起きて学校へ行きたくないと思う者(項目5)は上位群で少なかった。後者の項目は3学年ともに有意差があり、どの学年も40%前後の者が行きたくないとは思っていない。授業の受け方では、チャイムが鳴ったら勉強の用意をする者(項目2)は上位群で48%いるのに対して、用意をしない者は下位群では25%(上位群では0%)もいた。授業中、先生の話をよく聞く者(項目3)は上位群では50%もいるのに、下位群では僅かに10%であった。ノートの取り方では、上位群の者は下位群の者と比べて、ノートをきちんと、ていねいに書き(項目3)、勉強したことをノートにまとめて書く者(項目4)が多かった。テストの受け方は、見直している者(項目4)や間違ったところをやり直している者(項目5)が上位群で多かった。

要 約

子どもの学習習慣を査定する調査項目を作成し、学習習慣の学年差と性差を調べるとともに、 学習習慣と学業成績との関係を検討した。学習習慣の構成要因としては、家庭の学習習慣として 生活習慣(6項目)、学習環境(5項目)、宿題・復習・予習(4項目)、計画と実行(5項目)、 勉強の仕方(5項目)の5つ、学習意欲としては積極性・向上心(6項目)と集中力・持続力 (6項目)の2つ、学校の学習習慣として登校の意欲(5項目)、授業の受け方(10項目)、ノ ートの取り方(5項目)、テストの受け方(5項目)の4つをとりあげた。

小学 2年生 115名、 4年生 139名、6年生 141名に各質問項目について"はい、いつも"、 "はい、ときどき"、"いいえ"で答えさせ、望ましい応答に 2点、中間の応答に 1点、望まし くない応答に 0点を与えた。主な結果は次の通りである。

- (1)11の構成要因すべてにおいて、女子の方が男子よりも高い得点(望ましい習慣)を示した。
- (2)生活習慣、学習環境、勉強の仕方および積極性・向上心では有意な学年差がなかった。
- (3)宿題・復習・予習および計画と実行は4年生が最も低くて2年生と6年生はほぼ同じであり、 集中力・持続力は2年生が最も高くて4年生と6年生はほぼ同じであった。
- (4)登校の意欲と授業の受け方は高学年になるにつれて低くなり、ノートの取り方とテストの受け方は高学年になるにつれて高くなった。
- (5)学業成績上位群と下位群の学習習慣を比べてみると、2年生では生活習慣、集中力・持続力 および登校の意欲で有意差があり、4年生では上の3つに加えて宿題・復習・予習、授業の受け 方およびテストの受け方の6つの要因で、6年生では学習環境以外の10の要因で有意差があり、 いずれも上位群の方が望ましい学習習慣が身についていることを示している。
- (6)項目ごとに群差を調べたところ、2年生では家庭の学習習慣 3 項目、学習意欲 1 項目、学校の学習習慣 6 項目(計10項目)で有意差があり、4年生では同じ順に 3 項目、2 項目、7 項目 (計12項目)、6年生では9項目、4項目、8項目(計21項目)で有意差があり、いずれも成績

上位群で望ましい応答が多かった。

以上の(5)と(6)の結果から、学業成績と学習習慣の関係は2年生から4年生、4年生から6年生へと学年が進むにつれて強くなるといえる。

引用文献

松原達哉 1967 学力向上要因診断検査 日本文化科学社 松原達哉 1967 能率的学習法診断検査 日本文化科学社 杉村 健 1984 学習習慣のしつけ——その心理学考察 —— 児童心理 38巻 6号, 24-31。

辰野千寿 1964 学習習慣の心理学(1) 児童心理 18巻7号。113-136。

辰野千寿 1977 新学習適応性検査 日本図書文化協会 田崎 仁 1961 診断性学習法診断検査 田研出版

<付記> 資料の収集にあたり、磯城郡川西町立結崎小学校の御協力を得ました。資料の収集に は本学心理学専攻3、4回生、集計と統計的分析には心理学専攻4回生清水益治、3回生岩本 統子、富士本綾子、守屋環の諸君の協力を得ました。心から感謝致します。

学習習慣調査項目

家庭の学習習慣

A 生活習慣

- 1 家の人に言われなくても、決まった時間に寝ますか。
- 2 朝寝坊をして、遅刻することがありますか。
- 3 寝る前に、明日の時間割りを確かめておきますか。
- 4 忘れ物をしないように気をつけていますか。
- 5 勉強する時間と遊ぶ時間を分けていますか。
- 6 テレビを見すぎて勉強しないことがありますか。

B 学習環境

- 1 家では決まった場所で勉強していますか。
- 2 家で勉強するとき、姿勢や明かりに気をつけていますか。
- 3 勉強机の上には、勉強で使うものだけを置いていますか。
- 4 家では本やノートの整理・整頓をしていますか。
- 5 辞書や図鑑は勉強机のそばに置いていますか。

C 宿題・復習・予習

- 1 宿題は忘れずに、きちんとやっていますか。
- 2 学校で習ったことは、その日のうちに復習していますか。

- 3 次の日の授業の予習をしていますか。
- 4 宿願がなくても勉強していますか。

D 計画と実行

- 1 家で勉強の計画を作っていますか。
- 2 計画した勉強は最後までやりますか。
- 3 その日に家で勉強する教科を決めていますか。
- 4 家では何時から何時まで、勉強するかを決めていますか。
- 5 家では決めた時間に勉強していますか。

E 勉強の仕方

- 1 教科書を何回も読みますか。
- 2 どこが大切かを考えながら教科書を読んでいますか。
- 3 教科書を読んだあとで、大切なところをまとめていますか。
- 4 大切なところは、忘れないように覚えようとしていますか。
- 5 勉強の仕方を工夫していますか。

学習意欲

A 積極性 · 向上心

- 1 親に言われなくても、自分から進んで勉強していますか。
- 2 勉強することが楽しいですか。
- 3 新しいことを勉強したいと思いますか。
- 4 学校で習ったことについて、もっと詳しく調べますか。
- 5 できなかった問題を、もう一度やってみますか。
- 6 分からないところは、分かるまで勉強しますか。

B 集中力・持続力

- 1 家で机に向かったとき、すぐ勉強を始めますか。
- 2 家で勉強を始めたら、最後まで頑張りますか。
- 3 家で勉強しているとき、ほかのことを考えることがありますか。
- 4 家で勉強している途中で、マンガを読むことがありますか。
- 5 家で勉強している途中で、テレビを見ることがありますか。
- 6 家で勉強を始めても、すぐいやになってしまいますか。

学校の学習習慣

A 登校の意欲

- 1 学校へ行くのが楽しいですか。
- 2 休みの日よりも学校がある日の方が楽しいですか。
- 3 少しくらい体の調子が悪くても、学校へ行きたいと思いますか。
- 4 学校で友達と遊ぶのが楽しいですか。
- 5 朝起きて、学校へ行きたくないと思うことがありますか。

B 授業の受け方

- 1 チャイムが鳴ったら、すぐ席に着きますか。
- 2 チャイムが鳴ったら、すぐ勉強の用意をしますか。
- 3 授業中、先生の話をよく聞いていますか。
- 4 授業中、先生の質問に自分から進んで答えますか。
- 5 授業中、自分から進んで意見を言いますか。
- 6 授業中、分からないところがあったら、質問しますか。
- 7 授業中、ぼんやりしていることがありますか。
- 8 授業中、よそ見をすることがありますか。
- 9 授業中、落書きをすることがありますか。
- 10 授業中、おしゃべりをすることがありますか。

C ノートの取り方

- 1 先生が黒板に書いたことを、ノートに書きますか。
- 2 先生に言われなくてもノートに書きますか。
- 3 ノートはきちんと、ていねいに書いていますか。
- 4 勉強したことをノートにまとめて書いていますか。
- 5 ノートの書き方を工夫していますか。

D テストの受け方

- 1 テストの前に、計画を立てて勉強していますか。
- 2 テストのとき、問題をよく読みますか。
- 3 テストのとき、分かる問題からしますか。
- 4 テストの答えを書き終わったとき、見直しますか。
- 5 テストを返してもらったとき、間違ったところをやり直しますか。